

平成 17 年 3 月期第 2 四半期および中間決算説明会

平成 16 年 10 月 20 日 15:30 ~ 16:35

於 :東京証券取引所東証ホール

お断り : このメモは、決算説明会にご出席になれなかった方々の便宜のためにご参考として掲載するものであり、説明会でお話したことの全てを一字一句書き起こしたものではありません。当社 IRグループの判断で、簡潔にまとめさせていただきました。ご了承ください。また、最終頁の注意書きもあわせてご覧ください。

(1)CFQ(1)間より、第 2 四半期の数字の説明

在外子会社の為替の影響は、売上高の影響度は約 2 億円弱のマイナス。営業利益で約 4 億円弱。経常利益・中間純利益は、4 億円台の影響があります。これは財務諸表が、昨年の為替レートで計算したときよりは少し縮んで見えるということです。売上高の増収額は 107 億円で、15.8%の増収です。今期の増収は、在外子会社の為替の影響はほとんどありませんので、1Qに引き続きまして、デジタル家電の景況を享受できたということです。15.8%の増収の内、エレクトロオプティクス(EO)の売上の伸びが 13.9%。同じく営業利益では 40.5%の増益のうち、EOの増加率が 41.2%ですので、ほぼEOがグループ全体の増収増益を引っ張ったと言えます。

営業外増益は、昨年は為替の差損が 12 億円あり、当期は 1 億円の差益です。この影響で 13 億円、営業外で増益要因があります。もうひとつは持分法の投資利益に 8 億 8 千万円のプラスがありますが、これは NH テクノグラス(株)という液晶パネルのガラス基板を作っている、日本板硝子(株)と当社が半分づつ出資している会社の分です。為替と合わせますと約 22 億円の増益要因で、営業利益にその分が乗りますので、経常利益の増益率が 56.1%となります。

特別損失の環境整備費、これは新聞にも一部出ましたが、当社の羽村工場の土壌改良費用を計上しました。退職加算金が約 7 億円弱ありますが、これはフランスの子会社の工場の一部を閉鎖したことに伴う費用です。その結果、税引利益は 166 億円で、82.6%の増益となりました。

次に製品ごとの売上の推移をお話したいと思います。

製品群	前年同期(2Q) 対比伸率(%)	直前四半期(1Q) 対比伸率(%)
半導体製造用マスクブランク	5.4	0.8
半導体製造用フォトマスク	1.2	6.4
液晶用フォトマスク	37.3	6.5
HDD用ガラスディスク	120.1	18.2
光学レンズ・光学ガラス	14.1	2.3
メガネレンズ	3.3	4.8
日本国内	5.4	9.6
北米	9.8	4.1
欧州	10.3	0.0
アジア	5.5	5.9

配当は、中間配当 1株あたり60円ということで、昨年同期が50円なので、今中間期では、10円の増配をさせていただきたく存じます。今年も、例年と比べると設備投資は倍くらいやります。アジアにいくつかの工場・会社をつくりまして、今後の成長をそこで取っていく。基本的には企業価値が増えるような投資を優先したい。企業価値を増やして株主の皆様には会社の成果を享受していただいて、そういうことを行った後で残った分を還元していきたい。事業成長を優先に考えていますので、配当についてもそういう考えで決定させていただきました。支払い開始日は、11月26日になります。

(2)CEO鈴木より、業界の動向・当社の業績についてのコメント

マスクブランクは、7月一杯は堅調。8月くらいから、日本は良かったが、海外向けが少し重たくなってきた印象です。ただ数字はプラスになっていますので、そんなに大きく落ちた訳ではない。

Q3も、そんなに大きく落ちる感じはありません。半導体フォトマスクのビジネスはほとんど日本ですが、デザインの数だけ見ると、結構出てきているし、決して良い状態ではないが、そう悪くなる訳ではないというのが、半導体全般のイメージかなと思っています。

液晶用マスクは、7月中旬くらいから、パネルの価格低下、顧客の在庫の関係で市況の変化が顕在化してきました。ただマスクとしては、モニターの大型化や高精細化で品質を厳しく要求されることによる需要や、顧客の新しいラインの立ち上げがあり、売上が伸びました。

下期でも多くのラインが立ち上がるので、マスクの需要は大丈夫と思いますが、マスクメーカーが能力増強を図っていますので、その先どこかで需給関係が崩れる懸念があります。

HDD用ガラスディスクは、HDDは3月くらいから調整がありましたが、7月くらいから良くなりました。2.5インチのノート向け、3インチともは好調でした。1インチは、Q2は順調ですが、クリスマス用に作り込んでいるため、11月に生産調整があると思われるので、Q2、Q3と見ると、売上はフラットもしくは少し縮むかもと思います。

光学は、新しい工場を立ち上げて出荷を始めていますが、まだ需要が一杯です。

デジカメの在庫調整は、それほど極端に在庫を作り込んだというイメージはありませんが、第4四半期は調整があるでしょう。当社は12月くらいからカメラ付き携帯電話向けレンズを立ち上げますが、3メガの携帯は夏～秋モデル以降で、レンズとして量が出るのは来年でしょう。ですから下期はデジカメの調整の影響を受けると思います。

メガネレンズは、欧州の回復は下期からと言っていました。年明けかもしれない。しかし年間で18%の営業利益率は今の調子で行けばそれに近いところにいけそうです。

(3)Q&A

Q . 今回E Oの利益率がはじめて 40%を超えたが、主要製品の中で 4 割を超えているものが何個あるのか？

A . ノーコメントです。このセクターは顧客の数が少ないため、お客様にも株主の皆さんのためにもならないのでお答えできません。

Q . 半導体の来年の市況の見方は？相当ひどいのか？

A . 非常に難しい問題です。今までの半導体不況に比べると、それほどひどい状態なわけではないので、傷は浅くてすむのではないかと思います。しかしチップの需要を喚起するドライバーが意外とない。さらに世界経済の行方は関知できません。いずれにしても、すぐに悪くなるというふうには思えません。

Q . 前回開示した主要製品の伸び率 (Q on Q = 直前四半期対比) 予想と比べると、E Oの LSとLCDマスク、HDDディスクが計画を上回ったが、なぜマスクは計画を上回ることができたのか？

A . LSマスクは特に良かったわけではなく、Q1が良くなかったのでそう見えるのだと思います。LCDマスクは新ラインの立上げがあったことによるものです。

Q . LCDマスクは、来年は通年で減収を示唆されているのか？

A . きわどいところだと思います。価格の要素だと思う。マスク需要に対してマスク業界のキャパが上回る状態になれば、単価は下落するだろう。それと、マスクの実際の需要との兼ね合いです。

Q . HDDディスクのサブストレートのキャパについて、上期のキャパは前下期と比較するとどのくらい伸びているのか？下期は上期に比べてどのくらい増える見込みなのか？

A . 日本板硝子さんから譲り受けをする前のキャパに比べて1.3倍 (金額・物量ともに) になっています。来年の上期に需要が増えると予測していますので、それにあわせて能力を上げています。

Q . ホトニクスの上売がかなり増えているが、これは何か？

A . いままで持分法会社だったHOYAショットという会社の株の持分が増え、連結したためです。それと、一部HOYA株のE O部門に入っていた事業を移管していますので、売上が増えました。

Q . ビジョンケアで当期は減収でも利益率が上がったが、今後利益率を上げるには、コストカットなのか、売上を増やして利益率を上げていくのか？

A . 新製品を発表して売上につながっていくものもありますが、生産プロセスを変えて利益に貢献する部分も相当あり、量産工場の利益率が向上しています。競争環境のポジションを変えるためにマーケット投資や研究開発をすると利益率が下がる。ビジョンケアでは18%の利益率を達成して、維持していくという意見と、利益率は少し落としても、まずお金を使って競争優位性を獲得し、それから利益率を改善した方が良いのではという意見と社内でも議論しています。

Q . 雑誌の記事で社長が、ビジョンケアは今の世界シェア10%を20~25%に、売上を倍にしたい、と言っていた。投資家としては非常に心強いが、いつ頃、どういう方法でやっていくのか。

A.メガネは2桁成長はやりたい。オーガニック(既存事業)だけでは難しいので、M&Aを絡めていく。何社か追いかけてはいるが、期が熟すのを待つ必要もあり、いつまでにというと難しいです。無理にM&Aをやると社内の消化能力が落ちるので中長期の課題として取り組みたい。意欲は衰えていません。

当社は収益に対するE Oのウェイトが非常に高くなっているが、消費財と生産財がバランス良く存在する会社にしたいと思っています。

Q. 海外の新設工場の進捗状況は。

A. 中国の非球面レンズ工場 = デジカメ向けは生産を始めています。順次キャパを上げていく途中なのですが、これから上げていく量は携帯用です。手馴れたものを先にということで、当初立ち上げたのはデジカメ用です。

台湾のLCDマスク工場 = 機械を搬入して立ち上げて、そろそろ認定用の製品を描いて顧客に配り始めるところまでできてますので、順調に11月中には本格稼働ということになると思います。

韓国のLCDマスク工場 = やっと杭を打ち始めたというところで、冬になってコンクリートが固まらなくなる前にコンクリートだけは打っておきたいという状況です。

シンガポールの眼内レンズの工場 = もう稼働していますが、日本へ輸入する厚生労働省の認可が当社の計画よりも遅れています。

HDDディスクの新工場 = 次の拠点の準備は順調にすすめています。

Q. 1Qの説明会時点のガイダンスより2Qの設備投資額が少ないが？

A.設備投資については、当期は約500億円を意思決定しており、工場の許認可を取るのに時間がかかったりしてますが、全体の流れからすると当初の予定に大体沿ってきていると思います。投資は環境変化に対応してフレキシブルに実施したいと思うので、1Qに言った時と違うということがあっても、企業価値の増分がどの程度出ているのかという尺度で見たいと思います。

本資料中には将来の当社の業績・当社を取り巻く業界の環境に対する予想の部分ががあります。これは当社および当社グループが現時点で入手可能な情報から得られた判断に基づいており、リスクや不確実性を含んでおり、その内容の完全性・正確性を会社として保証するものではありません。従いまして、これらの予想の部分に全面的に依拠して投資判断を下すことはお控えくださるようお願いいたします。実際の業績・業界環境は、様々な要素により、これら予想とは大きく異なる結果となりうることをご承知おき下さい。投資等の最終決定は、ご自身の判断でなさるようお願いいたします。投資の結果に対する責任は負いかねますのでご了承ください。